

製品名: OAZ2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15084**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	20kDa

抗原情報

遺伝子名	OAZ2
別名	
遺伝子 ID	4947.0
SwissProt ID	O95190
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。AA 範囲: 90-170

背景

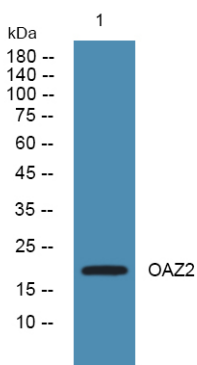
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞内ポリアミンを調節することで細胞の成長と増殖に関与するオルニチン脱炭酸酵素アンチザイムファミリーに属します。アンチザイムの発現には +1 リボソームフレームシフトが必要ですが、これは高レベルのポ

リアミンによって促進されます。アンチザイムは次に、ポリアミン合成の主要酵素であるオルニチン脱炭酸酵素 (ODC) に結合して阻害することで、自己調節回路を完成させます。この遺伝子は、アンチザイムファミリーの 2 番目のメンバーであるアンチザイム 2 をコードします。アンチザイム 1 と同様に、アンチザイム 2 は広い組織分布を持ち、ODC 活性とポリアミンの取り込みを阻害し、in vivo での ODC 分解を促進しますが、in vitro では ODC 分解を促進できません。アンチザイム 2 はアンチザイム 1 よりも発現レベルは低いですが、進化的に保存されているため、重要な生物学的役割を持っている可能性が高いことが示唆されます。研究では、異なる代替産物の存在も示されています。リボソームフレームシフトは、Ser-32 と Asp-33 のコドン間で発生します。自己調節機構により、細胞内のポリアミン濃度に応じてフレームシフトが調整されます。機能: オルニチン脱炭酸酵素に結合し、不安定化させます。オルニチン脱炭酸酵素の変性を促進しません。類似性: ODC アンチザイムファミリーに属します。

研究分野

-

画像データ



SW480 細胞溶解液のウエスタンブロット分析、OAZ2 ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩